



航空連合 ANA労働
組合中央執行副書記長
栢山 和彦

昨年10月から約2カ月にわたり、ユニオンカレッジを受講させていただきました。講義は、戦後の労働運動や生産性運動の歴史には

じまり、法の視点からみた労働組合の必要性や役割、労働組合としての経営分析の仕方、効果的な労使交渉の進め方や職場における対話スキル、男女平等参画社会の実現に向けた労働組合

の役割など、歴史、

法律との関係、社会とのかかわり、そして活動の手法と、労働組合に必要な知識・スキルがギュッと濃縮された内容となっていました。

た講義でしたが、多くの講師の方々が我々に伝えようとされていたことは、「原点を知ることの大切さ」であったのではないかと思えます。昨今、ワークス

と、職場

ルが多様化していく中で、それらに対応する制度や条件の整備・構築のために、多種多様な知識や幅広い視野がユニオンリーダーには求められています。

変化を見据え変革しようとする会社と対等に向き合うために、労働組合にも経済情勢や環境認識を深めることがこれまで以上に高いレベルで必要になっていきます。しかし、これら

に傾注しすぎる

の世話役活動という本来の組合活動が疎かになったり、職場との感覚のズレが生じてしまうのではないかと思えます。

る」という言葉もありますが、「変化をしていく過程で取り残されている者がいないか」という思考も労働組合には必要なのではないかと思えます。今回のセミナーでは、様々な知識やスキルを習得するとともに、組合役員

の先輩でもある講師の方々ご自身の「原点に

こだわった活動の歴史”を学ばせていただきましたと思っています。組合員との対話という原点を大切に、組合員一人一人が元気になる組合活動をしていきたいと思えます。

ユニオンカレッジを受講して